大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

東横堀見聞録
～天下の貨の七分は浪華にあり！～

天正13年（1585）に豊臣秀吉の命で大坂城の外堀として開削された、大阪市内で最も古い堀川・東横堀川。東側の上町から東横堀川に架かった高麗橋を越えると船場に入り、そこは「天下の貨、七分は浪華にあり」と謳われたほど、煌びやかで華やかな商家文化が息づいていました。戦後の高度経済成長時代に川の上に高速道路が通されて往年の景観は損なわれましたが、近年は地元住民や東横堀川水辺再生協議会（e-よこ会）などの活動によって、数々の水辺再生の取り組みが為されています。いま時代の最先端を進む「最も新しい堀川・東横堀川」。その魅力に迫るまち歩きです。

①蔀屋橋（よしやばし）【遊興の地・築地への架け橋】

俗に築地と呼ばれた蟹島遊廓への通路として設けられた橋。この遊廓は天明4年（1784）、蔀屋庄七らによって開発されたもので、橋も天明年間（1781～1789）に架設されたと考えられています。蟹島の地は大川の眺望が非常によく、料理屋、旅館などが建てられ発展しました。近年、東横堀川の玄関として、船の運航ルール標識が川に面して設置されました。

②今橋【上町から船場への新たな橋】

豊臣末期の頃には、すでに架けられていたと言われています。大坂の陣などの折か、何かの事情でなくなったものが、この通りが繁昌するにつれて新しく橋が架けられ「今橋」と名付けられたとされています。かつて蔀が生い茂るだけの浜岸だった地に、江戸時代には大両替商が軒を並べ、橋近くに平野屋五兵衛と天王寺屋五兵衛が向かい合って店を開き、二丁目には鴻池屋も開店し以後の鴻池繁栄の根拠地となりました。

③高麗橋【大阪歴史の表舞台】

大坂城築城の頃、外堀として東横堀川が掘られた時に架けられたとされています。橋の名前は当時この橋を中心に高麗との貿易が盛んだったとか、迎賓館の名前に因んだものだとか言われています。江戸時代、大坂城と船場を結ぶ橋の中でも公儀橋として最重要視され、西詰には御触書を揚げる高札場、明治時代に東詰には諸国への距離をはかった起点=里程元標が設けられました。高麗橋通りには呉服や食べ物などの店が立ち並び商業の中心地として繁栄し、明治3年（1870）には大阪で初めての鉄橋に架け替えられました。

④平野橋【御霊さん神明さんをつなぐ一六夜店】

江戸時代、平野橋を東にいったところに神明神社、西にいったところに御霊神社があり、その門前の盛り場として賑わっていました。1と6のつく日に定期的に開かれる一六夜店は当時の大阪名物のひとつとされ、明治期までその賑わいは続いたそうです。平野橋両側の町名は旧町名をそのまま受けついでおり、東側は「内平野町」、西側は「平野町」といいます。このことから、東横堀川の東側は大阪城の“内側”だったということが分かります。

⑤大手橋【北に行くか南に行くかの思案橋】

橋の東側をまっすぐ行くと大阪城の大手門に通じる大手橋。古くは思案橋と呼ばれていました。西側は行き止まり、北（淡路町通）へ行くか、南（瓦町通）へ行くか思案するところから命名されたとか、豊臣秀吉が五奉行の一人、増田長盛に、この橋の名前を付けるよう命じた時、思案してもなかなか決まらなかったことからとの説もあります。橋の一つ北側の通り内淡路町に忠臣蔵で有名な天野屋利兵衛の邸があったと言われています。

⑥本町橋【現存する大阪最古の橋】

江戸時代には公儀橋であり、豊臣秀吉が大坂城築城に際して東横堀川を外堀として開削した時に架けられたと考えられています。現役の橋としては大阪市内最古の橋といわれ、大正2年（1913）に本町通が市電開通にあわせて拡幅されたのと同時に建設されました。橋詰の北東側は、享保9年（1724）の大火事以降に西町奉行所が、その後明治に入ると初代大阪府庁が設置されるなど、行政の中心地となりました。

⑦農人橋【上町の農民が田畑へ通った橋】

江戸時代に12の公儀橋の一つとして指定された重要な橋です。橋名の由来は、古くより農民が田畑へ行き通うための橋であったからだとされています。寛永・正保（1620～40年代）の頃までは、橋の西側には田畑や芦原などが多く、町家は東側に多かったものが、その後西側の地にも町家が建てられ急速に繁栄していったと言われています。東横堀川は本町橋から農人橋の間で、東側へ曲がっており、これを「本町の曲がり」と呼んでいます。

⑧渋谷利兵衛商店

創業享保9年（1724）、9代目当主が伝統を伝える老舗婚礼儀式品店。戦前には中之島に結婚式場や花嫁学校を経営し、総合ブライダルプロデュースの先駆けともいえる商いを展開。「ホテルで神前結婚式」というスタイルは、七代目当主と御霊神社、旧大阪ホテル（大阪初の西洋式ホテル）が協力して開発したとのこと。

⑨ゼー六

本町橋の西詰に佇む大正2年（1913）創業の老舗喫茶店。名物のアイスモナカは大阪人なら一度は食べたことがあるのでは。「ゼー六」とは「贅六文化」のことで、禄（資金）、閥（人脈）、引き（裏交渉）、学（学歴）、太刀（武器）、身分、の6つの贅沢を必要とせず、心の通じ合う商売をした大阪商人の生き方を大切にしようという初代の想いが込められています。

⑩東横堀川水門

平成12年（2000）に完成した東横堀川水門は、道頓堀川水門と対になっている閘門です。①門の前後で水面の高さが違う時に水門内で水位の調整を行い船舶を航行させる、②大雨や高潮で水位が上昇する時は水門を閉めて浸水被害を防ぐ、③潮の干満を活かして門を開閉して水質をきれいにする、という役割があります。水門が開閉するときに船の信号がわりに出る噴水は、大阪市章「みおつくし」のかたちをイメージしてつくられたそうです。

e-よこ会（東横堀川水辺再生協議会）について

平成18年7月24日、天神祭のどんどこ舟の音が響く東横堀川で、住民やこだわりショップのオーナー、地元企業などが集結し、e・よこ会（東横堀川水辺再生協議会）を発足しました。「まちなかに生きる東横堀川」を目指し、季節ごとに水辺を楽しむイベントの開催、毎月のお掃除、橋へのフラワーポット設置など、川を生かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。

e・よこ会のロゴマークは、「いろいろな人々が集まる水辺」と「高架のある空間」をイメージしています

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。